



学ぼう伝えよう 輝く 恵那人 HUMAN WATCH

209
人目

岩村町飯羽間2区
いとう みき
伊藤 未来さん(12歳)

□プロフィール
恵南ジュニアスケートクラブ所属。岩村町小学校6年生。得意な教科は国語と体育。父親と海釣りに行くのが楽しみ。姉の愛さん(恵那農高1年生)は、今季インターハイのスピードスケート競技に出場。

スケート界期待の星 全国大会で2種目優勝の快挙を達成

1月に山梨県で開催された2021/22全日本ノービススピードスケート競技会。伊藤未来さんは、小学6年生女子500mと1000mに出場し、2種目で優勝する快挙を成し遂げた。北京2022オリンピック競技会に出場した代表選手らと同じ公益財団法人日本スケート連盟(JSF)の強化選手(9~12歳の女子ノービスクラス)に指定され、今後、さらなる飛躍が期待されるスピードスケート界期待の星だ。

スケート靴を履いたのは3歳の時。四つ年上の姉が、国体出場経験を持つ父の影響で始めたスケートの練習についていくうちに、「自分もやってみたい」と思った。バレーボールやサッカー、バスケットボールでも素質を見せる運動神経の良さに、負けず嫌いという性格が加わり、見る見るうちにスケートの実力が開花していった。

初めての全国大会は、4年生で出場した全日本ノービス競技会。他の選手の記録を見て自信は持てなかったが、今回同じ2種目で準優勝という結果に驚き喜んだ。それと同時に、負けた悔しさが胸に込み上げてきた。

雪辱を誓い「日本一になりたい」という志を胸に、所属クラブの練習がない日も恵那スケート場に通い、中学生を相手に強化に取り組んだ。「自分の記録を更新した時の達成感がたまらない」と、自信を持って臨んだ今年の全国大会では、得意の先行逃げ切りが決まり、大差で二冠を達成。表彰台ではうれしさを感しながらも「応援に来られなかった母に早くメダルを見せたい」と、家族への思いを募らせた。

今季の目標は、小学生には難しいとされるJSFの階級テストでA級を取ることに残されたチャンスは、3月5日から青森県で行われる大会のみ。「高い目標だけど可能性はある。ここまで導いてくれたコーチや家族のためにも頑張りたい」と、意気込みを新たにしていた。



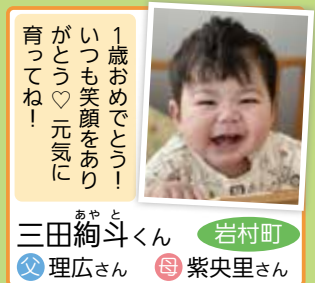
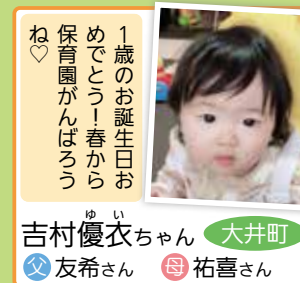
▲全国大会で優勝し、表彰台に立つ伊藤さん(中)



はじめまして
えなっ宝
出生おめでとう
(1/16~2/15 届出分)

()は保護者

子育て情報はここから！



7歳になりました
3月生まれ



4月に1歳の誕生日を迎えるお子さんの写真を募集します。①お子さん1人で写った、顔全体と胸から上が入っている写真 ②住所(町名まで) ③氏名(ふりがな) ④生年月日 ⑤性別 ⑥電話番号 ⑦両親の氏名(ふりがな) ⑧32字以内のコメント ⑨ケーブルテレビ放映の可否を、3月15日(木)までに電子メール(☐info@city.ena.lg.jp)か申し込みフォームで申し込みください。土日祝を除き3日以内に掲載可否を連絡します。掲載は先着8人までです。申し込みフォーム▶



みんなで力を合わせて鬼退治

中野方こども園



ぞう組(年長)
長江 朔太郎くん

鬼からの手紙を見て、今日はこども園に行くのがちょっと怖かった。でも、勇気を出して行くことができたよ。みんなで豆をいっぱい投げて、自分の心の「準備が遅い鬼」と「すぐ忘れちゃう鬼」も退治できたよ。

2月3日、中野方こども園の全園児34人が節分の行事に参加しました。笠置山の鬼から「心の中に鬼がいる子が大好きだ。会いに行くぞ」という手紙が届いてから、鬼を撃退する準備をしてきた園児たち。自分の心の弱い部分を考えたり、豆を投げる練習をしたりして準備して待っていました。豆を食べて力を付けた後、赤鬼と青鬼、自分の心の中にいる鬼に向かって「元氣よく「鬼は外！」と立ち向かい、鬼を退治することができました。最後に焼いたイワシを食べて邪気を払い、一年の無病息災を願う伝統行事を楽しみました。

